

第11回研究集会のご案内

評価と評価活動にどう取り組むか

— 観点別評価を中心として —

趣旨：新学習指導要領の実施が目前に迫り、評価と評価活動を具体化することが求められる状況にある。観点別評価が3観点となるなかで、各観点の捉え直しを各教科等に則して吟味していく必要がある。特に「思考力・判断力・表現力」並びに「学びに向かう力等」に関わって、学校と教師は具体的にどう取り組むか深める必要がある。しかしながら、従来のままの把握や各観点を孤立的に評価するなど、指導要録を含めて現在の評価活動の抱える課題を実践的かつ研究的に検討したい。

1. 開催日時：2020年3月7日（土）13時30分～16時30分（受付13時00分～）

2. 開催場所：お茶の水女子大学・共通講義棟2号館102室（正門からお入り下さい）

<http://www.ocha.ac.jp/access/ochacampusmap.html>

*入構時にチェックを受けますので、身分証（社員証、免許証、保険証といった本人の名前が確認できるものであれば可）をお持ち下さい。

3. 司会：子安 潤（中部大学教授）・吉富芳正（明星大学教授）

4. 報告者とタイトル

遠藤貴広（福井大学准教授）

学習評価の実践をめぐる論点—熟議的コミュニケーションとしての評価への展望—

堀 哲夫（山梨大学名誉教授）

理科の学習指導の改善に生かす評価—OPPAを中心に—

増田 陽（東京都公立小学校教諭）

評価という窓からのぞく教室の景色